

「食は生きる基本。そして、おいしく、楽しいもの」

福島県県南保健福祉事務所 健康福祉部副部長兼健康増進課長 積口 順子

この度は表彰いただき誠にありがとうございました。この受賞は、いつも私を励まし、支え、御指導くださった皆様のお陰です。心より感謝申し上げます。

「食を通して福島県に貢献したい!」と昭和 63 年に県職員となり、やり残したことも多々ありますが、自分にできることは全力で取り組めたかなと感じています。そんな風に思えるのも、これまで出会えたたくさんの人達に恵まれていたお陰だと感謝の気持ちで一杯です。

「食」は、「生きる基本。そして、おいしく、楽しいもの」、そして無限の可能性があります。これからの人生は、今まで出会えた人達との絆を大切に、これからの新しい出会いに期待して、誰か一人のためにでも、感謝の気持ちを少しずつお返ししていければと思っています。

「栄養関係功労者厚生大臣表彰を受賞して」

福島県立医科大学会津医療センター附属病院 久田 和子

この度、栄養関係功労者厚生大臣表彰という栄誉を賜り、身に余る光栄に存じます。

ご指導を賜りました諸先輩方や支えてくださった同僚の皆様は心より感謝申し上げます。病院栄養士で入職した当初は、病気知らずの私が患者さんに寄り添えるのだろうか、と不安を抱いたことを思い出します。栄養管理を通して患者さんの回復に関わる中で、食と栄養の奥深さや重要性を改めて実感し、学びを重ねる日々でした。多くの仲間や多職種の皆様と共に歩み、様々な患者さんの療養支援に取り組む経験を通して、大きなやりがいと共に職責の重さも感じております。今後も栄養の可能性は広がり重要性も高まるものと確信しております。これからも食と栄養の力を未来へ繋ぐべく、微力ながら精進してまいります。

「日本栄養士会名誉会員として」

中村 啓子

この度 2025 年度公益社団法人日本栄養士会定時総会において、名誉会員に推戴されました。賞状と名誉会員登録番号 166 号の会員書を頂き、身に余る思いでいっぱいです。

受賞にあたり鈴木秀子前会長、大塚綾子会長をはじめ多くの会員の皆様に感謝を申し上げます。

私は、昭和 43 年病院栄養士として就職しました。給食管理が主な業務でした。翌年栄養士会に入会。先輩栄養士や多くの仲間づくりや最新の知識を得ることができたことは、私の財産です。特に記憶に残る研修会は病態栄養講習会です。病態について学び、最後に栄養指導 3 症例のレポートを提出する内容でした。現在は、チーム医療で仕事をしていますが、当時は、まだ紙のカルテを見て読むこともできませんでした。レポートを書くにあたり多くの医師と関わりご指導を頂き仕上げました。その後、職場でも栄養士会とも輪が広がった原点です。

退職後菊地臣一先生から「理事長からの花だより」「学長から手紙」の本に「依用相承」の言葉を添えて頂きました。生け花とコラムが載っていてとても癒される本です。

これからも思考と心の在り方にして学んでいきたいと思っています。

「感謝を込めてこれまでの業務を振り返ります」

若松あおいクリニック 管理栄養士 小檜山富士子

この度の受賞に関しましては栄養士養成施設の先生・各職場での経営者と同僚の皆様の支援のおかげと、心より感謝申し上げます。

短期大学を卒業と同時に鎌倉市の内科系の病院に就職し、給食業務と同時に透析室の開設に関わり、同時に横須賀共済病院において透析食に関する研修を長期間通いながら「透析」について一から学ばせて頂きました。その後は結婚を機に会津若松へ転居してからは会津中央病院に定年まで勤務いたしましたが給食業務の委託や栄養サポートチームの設立等、日々、目まぐるしい業務でした。ただ、委託会社の責任者とスタッフの皆様は患者さんへの個別対応食に協力していただき、業務を継続できたことに今も感謝しております。(当時の患者さんにお会いする機会がありその対応について、感謝の言葉をいただく事があります。) 現在の業務は「慢性腎臓病の栄養食事療法(腎臓病外来)」と「透析患者の栄養管理・栄養食事療法」ですが、これからも“顔の見える管理栄養士”にこだわって仕事をしていきたいと思っています。